

スポーツ活動と市民活動

アクアコンサルタント株式会社／常務取締役 三宅秀典



1. はじめに

当社は2020年1月、新型コロナウイルスの流行が始まると同時期に創業し4期目となる新しい会社です。

今回の寄稿では、会社を離れて日常的に活動している事柄から気付いたことと、それぞれに対する思いを紹介させていただきます。主に、生涯スポーツとして続けられる種目についてと、ボランティアに関する内容です。

2. スポーツ活動

(1) バドミントンについて

私は中学校の部活動でバドミントンに出会い、大学のサークルを経て新社会人となってから20年以上経過した今でも競技を続けています。現在は、サークルを運営し小学生から還暦過ぎの方まで幅広く参加していただいています。もちろん私自身もプレイヤーとして今も続けていますが、ずっと三流選手です。それでも続けられるのは、競技そのものの魅力があるからだと思います。豊富な運動量に加え、相手の逆を突く戦略組立て・場面に応じてミスの少ないショットを選択して返球するなど、瞬時に判断して戦います。主にダブルスをしているので、パートナーの力量を判断することも必要になります。パートナーと力・呼吸を合わせて戦います。決定打は必ずしも自分でなく、パートナーに決定打を打たせる展開を作ることも楽しみの一つです。バドミントンは、基礎体力や筋力も当然必要にはなりますが、短い時間に瞬時的



写真-1 バドミントン大会の様子

に判断することが何よりも楽しいです。

プレイヤーとしても楽しいから継続していますが、今は特に自身でサークル運営することにも魅力を感じています。SNS等を利用して練習会参加メンバーを探しているため、転入者や新卒社会人の比率が多いサークルになってきています。トータルの人数は100名を超え、たくさんの方々と交流しています。この人数になると、バドミントンの経験値（ルールもわからない初心者から全国大会経験者まで）がバラバラに存在して、それぞれが楽しめるように対戦相手を選定してコートに割り振ります。性格の合う合わないも加味して考えると、本当に皆が楽しめるようにするのはかなり大変です。大変ですが、参加者が増えるということは楽しんでもらっているのだと思います。そのこと自体が私の喜びで充実感につながっています。

いちプレイヤーとして、サークルの代表者として、バドミントンはこれからも続けていきたいと思っています。

(2) カーリングについて

カーリングの盛んな地域で学生時代を過ごしたので、比較的馴染みはあったけれど競技としてカーリングをしたことはありませんでした。それでも、オリンピックの度に見ることは好きでしたので、ルールはある程度知っていました。

体験会を通して実際に競技をやってみて、これほど面白いものは無いと感じました。氷上のチェスと呼ばれる戦略の構築は最も大きな魅力の一つです。それ以外に、どのスポーツも似た要素はあると思うのですが、予想以上に素早い判断が必要な競技であることが意外な点でした。具体的には、スウィーパーと呼ばれるブラシで氷を擦ってストーンをコントロールするポジションでは、ストーンがどこで止まるかの判断を瞬時にしなくてはなりません。判断したことを短い時間で司令塔に伝え、それと同時に力いっぱいスイープもしなくてはなりません。10数秒の間に、どこに止まるか・どれくらい曲がるか、既にあるストーンと衝突してどのような形になるかを判断します。これには、瞬時の判断力・経験値・コミュニケーション能力などが強く求められます。スキップと言われる司令塔は、戦略の構築のみならず、チームメイトの

技量の判断も必要とされ、大量の情報処理を必要とします。ポジション構成により変わる場合もありますが、最終ショットはスキップが行うことが多く、プレッシャーのかかる場面が多いのもこのポジションです。

多くのスポーツが同じであると思いますが、精神状態の影響が強く出る種目であるとも思います。それに加え、選手同士が近く言葉を使ったやり取りを必要とし、言葉遣いやお互いの態度によってチームメイトのパフォーマンスも変わることも多々あります。

カーリング競技のルールブックには、まず初めに「カーリング精神」というものが記載されています。スポーツマンシップやマナーを重んじる競技は数多くありますが、ルールブックの冒頭でスポーツマンシップを重んじる具体的な文章が載っているというのは驚きでした。そしてそれを、スポーツマンシップという一括りではなく「カーリング精神」として具体的に独立した考えであることも驚きでした。

「カーリング精神」についての具体的な内容は検索すれば出てきますので、ご興味のある方は検索してみてください。ルールブックに掲載されているこの文章はどれも削り難い素晴らしい文章なのですが、私が特にその中で好きな文章は最後の『アイスに乗っているいなに関わらず、ゲームの規則の解釈や適用に生かされるだけでなく、全ての参加者の振舞いにも生かされるべきものです。』という箇所です。人間的な成長をしなくては、真のカーラーとは成れないというわけです。自身の精神的成長にもつなげ、より豊かで楽しい人生としたいと思い、カーリングも永く続けてゆきたいです。



写真-2 カーリングの様子

(3) ゴルフについて

ゴルフは経験者が多いと思いますので、多くを語るつもりはありません。多様な自然条件に加え、やはり自身の力量の判断や確率分析が必要です。日常的な反復練習はショットの成功確率を上げるために必要なことですが、練習そのものも楽しく爽快に汗をかけるので続けたい競技の1つです。実際のラウンドでは、同伴者たちとの一喜一憂もまた楽しいものです。



写真-3 雪が舞うゴルフラウンド

3. ボランティア活動について

(1) 女性がん患者の集い

私自身は女性でもありませんし、がん経験者でもありませんが、ご縁があり私にも役に立てる場面があるということでお声がけ頂き関わっています。私は具体的には、パソコンを使う場面などでお手伝いをしています。

この会では、女性に多い種類のがんに対する啓発活動を始め、温泉入浴着の普及活動などを行なっています。通常浴槽には、衛生上の問題から衣類（タオル等）をつけることができず、水着での入浴ができる温泉施設は少ないです。温泉入浴着とは、衛生上の基準をクリアした温泉で着用しても良い水着のようなものです。具体的には、乳房切除した方などが着用して入浴します。私はこの会に入って直接お話を聞いて「それは気づかなかったな」と思ったのは、この入浴着は乳房切除した方が傷跡を隠したい気持ちから使用するものだとばかり、固定概念的に考えていました。ですが、お話を聞くうちに、隠す目的は同じだけれど、自身に対して後ろ向きな気持ちよりも、小さなお子様が傷跡を目にした時に驚かせてしまう、怖がらせてしまうことのないようにという思いから、入浴着を使用する方もいるということでした。

いずれにしても、傷跡のある方が気にせず温泉を楽しめるようにと活動しており、ポスターを掲示してくれ



写真-4 入浴着

ている温泉施設も増えてきました。知っていただくことがまず第一歩ですので、紹介させていただきました。

(2) 駅前スケートリンクについて

帯広市の中心市街地活性化とスポーツ振興を目的とした屋外スケートリンクの運営に、カーリングからのご縁で運営に関わることとなりました。

駅から徒歩1～2分の街なかに冬期(12月から翌2月)屋外スケートリンクを作ります。12月に入り一日中マイナスの気温となった日から、交代で夜間に水をまく作業が始まります。リンク開放後は、スケート靴のレンタルを中心に運営を行いました。週末には、地元フィギアスケート教室によるエキシビジョン演技や、スピードスケート教室、氷上での音楽ライブ、アイスホッケーの普及活動などを企画しました。スケートリンクの横にはカーリング専用リンクも用意し、スケートもカーリングも楽しんでいただけました。

駅前という立地のおかげで、旅行や出張で来られた方にスケートとカーリング、どちらも経験するだけでも思い出しに帰ってもらえたことは喜びでした。帯広市にも昨今の情勢から漏れることなく外国人の方々も多く訪れましたので、語学の重要性は強く感じました。これについては、スマートフォンの翻訳アプリの成長も目覚ましく、大変助けられました。ですが、生のコミュニケー



写真-5 屋外リンクでフィギアスケート

ションを楽しみたいなら、もう少し話せるようになりたいと切に思います。

4. おわりに

スポーツ活動もボランティア活動も「人」や「地域」と関わるといふことそのものに喜びを感じ、日々生活しています。

最後に、なんとかしてそれっぽいことを言って終わりたいのですが、仕事においても「人」とのかかわりが最も重要なことであると思います。仕事をする上では基礎的素養として、技術力や知識など必要で重要なことはたくさんあります。そういった必要なことのうちのひとつに、上司・同僚・部下・取引先、直接かかわりのない人までも含めた、たくさんの「人」との良い関わり方が求められるのだと思います。そのためには、どんな活動も仕事に通じるし、仕事から得た方法だとか知識も、日常の活動の中に還元するのだと思います。

これからも多様な活動から多様な経験を積み、仕事と人生を発展させていきたいと思っています。ボウリングの話をするのを忘れていました…。(おわり)

つくば技術研究センター訪問記

—水理模型実験を見学して—

パシフィックコンサルタンツ株式会社／
国土基盤事業本部／上下水道部

足立 匡



1. はじめに

先日、弊社つくば技術研究センターを訪問し水理模型実験の見学に参加しました。水理模型実験の見学では、雨水幹線への接続、分水構造に関する実験や河川施設における落差対策や取水施設に関する実験を見学するとともに、雨水や河川の学習用卓上水理模型の実演を見学しました。水理模型実験の見学はあらためて水理模型実験の重要性を肌で感じることができる有意義な経験であったため、水理模型実験見学での所感を紹介するとともに水理模型実験を実施しているつくば技術研究センターの概要を紹介したいと思います。



写真－1 実験棟 外観

2. つくば技術研究センターとは

つくば技術研究センターでは、水理模型実験による水理実験、数値シミュレーションによる水理解析及び環境分析の他、全社の技術開発に関する実証実験を実施しています。ここでは水理模型実験に関する施設の概要を紹介します。

(1) 施設概要

つくば技術研究センターは茨城県つくば市中心部より車で30分に位置し、40,000m²の広大な敷地に実験棟、環境分析室、屋外実験場、水理実験給排水設備等を有し、令和6年11月に開設40周年を迎える施設です。

(2) 水理模型実験施設

実験棟及び屋外実験場において河川・砂防・ダム・上下水道・港湾分野について、解析では評価し難い現象を対象として水理模型実験を実施しています。

実験棟は、面積1,890m²、最大天井高10mの無柱空間を有しています。実験棟は天候の影響を受けず実験・試験が可能のため、高い計測精度が求められるダム施設の実験や日射の影響を受けやすいアクリル製の模型が多い上下水道関連の実験に使われます。また造波装置を有する直線水路を常設しています。

屋外実験場は敷地面積が22,000m²あり、直線延長が最大130mの河川模型等の実験装置を配置可能です。水理実験用の通水設備を2系統有しており、最大0.75m³/sの通水能力があります。水理実験に使用した水は、場内の帰還水路により低水槽に戻し循環利用しています。また水路幅約1.0m、水路長約30mの大型直線水路が2本常設されています。



写真－2 実験棟 内部状況



写真－3 屋外実験場 全景

3. 水理模型実験見学における所感

見学を行った雨水幹線への接続及び遮集の実験状況、河川施設におけるドロップシャフト等の落差工の実験状況及び卓上水理模型について所感を紹介します。

(1) 幹線接続部

本管に流入管が接続する箇所について模型が作成され、本管流入時に発生する損失水頭の低減及び空気塊の挙動について検証が行われておりました。模型実験では本管が満管となる段階において、本管内に残留する空気塊が流入管より浮上し、地上部において噴出するおそれがあることが確認されました。このことより、流入方法の選定やエア抜き的重要性について理解でき、今後の設計において留意したいと思います。

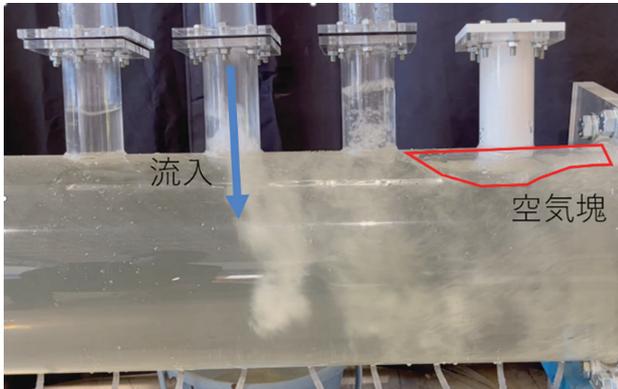


写真-4 空気塊の浮上状況

(2) 遮集施設・落差工施設

雨水本管への遮集施設（分水人孔）について模型が作成され、分水量の確保及び施設形状の改良について検証が行われておりました。模型実験では人孔流下時に発生する損失により人孔内の水位が上昇し、分水量に影響が生じている状況が確認され、遮集形状及び落差が生じる箇所について留意し、対策を実施する必要があることを認識しました。また落差工施設では損失及び空気による流下能力の障害が上流側の水位上昇の原因となっていることが確認され、落差工の方式の選定及び空気の取り扱いの重要性を理解できました。



写真-5 遮集施設

(3) 卓上水理模型

実験場では実験施設とともにつくば技術研究センターで製作された雨水排水や河川の卓上水理模型について説明いただきました。雨水排水の卓上水理模型では市街地に降雨が発生した場合に雨水浸透施設への浸透、雨水調整池への貯留及び雨水幹線への流入など、雨水がどのように河川に放流されるかを視覚的に理解することができ、視覚的な説明の重要性を感じました。



写真-6 雨水排水 卓上水理模型



写真-7 河川 卓上水理模型

4. おわりに

入社以来15年、日々上下水道施設の土木技術者として設計を実施していますが、水理模型実験の見学により損失の増加状況や空気塊の上昇状況など、解析及び計算では表現できない現象、損失が生じる状況、溢水する状況などを目視することができ、あらためて水理の奥深さや難しさを感じるとともに、水理実験の重要性を肌で感じることができました。今回の水理模型実験の見学で得た感覚・知見を今後の設計へのフィードバックし、水理的に優れた施設を設計できるように研鑽していきたいと思っています。

会員寄稿

之を楽しむ者に如かず、 海外業務での経験

日本水工設計株式会社／名古屋支社 新川勝樹



1. はじめに

本誌の会員寄稿はできるだけ若手が好ましい、との事実を知ったのは寄稿を快諾した後でした。引込みがつかなくなり、今年還暦を迎えたものの、人生100年まだ自分は若いと腹をくくるとしました。

昭和末期に入社以来、国内下水道のコンサルティング業務に携わってきましたが、40代後半から十年余り、海外での業務に係ることが多くなり、振り返ると東南アジアや大洋州、東欧など現地出張は通算で3年超の期間となりました。海外業務を長年専門とするコンサルタント諸兄姉に比べれば、決して豊富な経験とは言えませんが、私なりに印象深い国での経験について書かせていただきます。

2. パプアニューギニア

(1) 技術協力プロジェクト

国際協力機構（JICA）の発注業務で、パプアニューギニア（パ国）の首都であるポートモレスビー市沿岸部の下水道事業に関する技術協力プロジェクトに参团しました。当地では既存の下水道はありましたが、ほとんど未処理で海洋放流されていたところ、日本の援助（円借款事業）で活性汚泥法の処理場が設けられ、これらの運営管理のサポートをする業務内容です。

3年間に渡り、私を含め6名の日本人専門家が現地に行ったり来たりし、実に様々な活動を行いました。例えば、カウンターパートである現地上下水道公社職員の能力開発のためのワークショップや他国（日本、マレーシア）への研修実施、管渠維持管理や処理場運転管理マニ



写真-1 マレーシア政府機関表敬訪問

ユアル、中長期経営計画、環境教育計画の策定支援など諸々ありますが、いくつか印象深い経験をお話します。

本業務では、年2回現地政府や関係者による全体会議を開催し、プロジェクトの進行や取組方針についてレビューすることになっていました。プロジェクトも後半に差し掛かった頃の全体会議でのこと、下水処理場運転後の財務健全化のためには、下水道への接続強化（セプティックタンクからのつなぎ替え）と使用料値上げによる収入アップが公社にとって不可欠であることを会議で報告しました。すると、翌日の全国紙にでかでかと掲載されてしまいました。記事が載ること自体は住民啓発の意味からも有難いのですが、いかにも私が料金値上げを強弁しているかのような目立った写り方で、冷やりとしました。というのも、パ国は治安が非常に悪く貧困層も多いので、公共料金の値上げなどは暴動にも繋がりやすいお国柄であり、数日は暴漢に襲われたりしないよう、緊張して過ごしたものです。

プロジェクト期間中の2018年11月、APEC（アジア太平洋経済協力）首脳会議が同国で初めて開催されるということで、会議開催地であるポートモレスビー市はかなり気合が入っていました。私が宿泊していたホテルは、セキュリティ面から同市で最高クラスの五つ星ホテルであり、APEC期間中は各国首脳が宿泊しました。あの習近平主席も滞在したのですが、中国への付度は凄まじい



写真-2 現地全国紙でのトップ記事



写真－3 ホテル入口に即席で建てられた中華門

ものがあり、数日前にホテルの外観に全く似つかわしくない即席の中華門が建てられたほどです（APEC終了後は即撤去）。また習主席のホテルへの送迎は、何台もの護衛車が連なり、沿道は中国国旗を振り獅子舞を踊る華僑の人々で埋め尽くされ圧倒されました。

米国はトランプ大統領ではなくペンス副大統領が現地入りしましたが、当時（今もですが）米中貿易戦争で両国の対立は深く、その影響が同首脳会議で初めて首脳宣言が採択されないという異例の事態となりました。現地では、中国側が首脳宣言案に難癖をつけ議長国に圧力をかけたとの情報も耳にしましたが、パ国も相当なチャイナマネーの恩恵を受けインフラ整備などで多額の債務を抱えており、議長国でありながら中国にはモノが言えない状況だったのでしょう。日本からは安倍首相が来訪しましたが、現地新聞やニュースでの扱いは残念ながら中国に比べはるかに小さかったことも覚えています。

（2）ポートモレスビーの治安

パプアニューギニアは基本的には親日国であり国民性はフレンドリーなのですが、とにかく治安が悪い、ということでJICAや大使館からは、身の安全に十分注意するように留邦人向けの安全マニュアルが手渡され、指導を受けました。防犯対策として、「ワントーク」、「ラスカル」、「セトルメント」という3つのワードを理解する必要がありますとのこと。

「ワントーク」とは現地ピジン語で「一つの（Wan）言葉（Tok）」を意味し、特に都市型ワントークは地方都市から移転した部族（パ国には800もあると言われている）の連帯や相互扶助が機能しており、これを理由にした難癖や言いがかりで、邦人全体がペイバック（仕返し）の対象になることがあるとのこと（うーん、よく理解できない！）。過去の部族間闘争では弓矢や槍が使われたが、近年は銃やナイフに代わってきているので死傷者も増加との説明（こ、こわい！）。「ラスカル」とは窃盗や強盗、車両を襲撃する武装集団をそう呼ぶらしく、要は



写真－4 セトルメントの海上生活者

街中でたむろしながら犯行のチャンスを狙っているギャングのような存在のこと（出くわしたくない！）。「セトルメント」とは都市の中心・周辺部に不法居住し簡易住居・小屋など設置した数多くの部落（沿岸部の海上生活者もいる）であり、地方から都会に仕事を求めて来たものの、多くが無職のまま寄宿し貧困生活を送っており犯罪の温床になっているとの説明（これは近寄れない！）。

このようなことを、実際に邦人が受けた数々の犯罪事例とともに叩き込まれました。犯罪の動機は貧困であり目的は金品なので、万が一襲われた時は無理な抵抗はせず金品を渡すことや、テロなど殺傷目的の犯罪はまずないので、自分さえ気を付けて対応方法を間違わなければ大丈夫との説明も受けました。

筆者もショッピングモールを歩いていたら、男が「〇〇を知ってるだろ、俺の友達だ」的な事を言いながら馴れ馴れしく近寄ってきたので、一瞬受け答えしそうになりましたが、無視して足早に人気の多いところに立ち去ったことがあります。海外生活ではいつも誰かに見られている（狙われている）、くらいの意識で緊張感を持つことが大事なこともかもしれません。

（3）ホテルや週末の過ごし方

物騒な話ばかりしましたが、現地で長く滞在する間、楽しみも必要です。まず滞在したホテルですが、私達チームが現地入りする直前にグランドオープンした5つ星ホテルで、大型のショッピングモールが隣接し、館内通路からアクセスできるという、超ラッキーな状況でした。もちろんショッピングモールも完全に安全とは言えませんが、人目が多いので概ね安心して買い物やレストランにも行けました。ホテルには立派なジムや50mプールもあり、大いに利用しリフレッシュできました。ホテル代は高額でしたが、危険地域であるがゆえに、セキュリティや利便性が万全なホテルに宿泊でき、その費用はJICAから補償されていました。そういう意味ではラッキーでした。



写真-5 ポートモレスビーのゴルフ場 (PNG オープン)



写真-7 沖合にある無人島のビーチ



写真-6 ワニと会話できるという飼育係と巨大ワニ

ホテルからすぐ近くにゴルフ場がある、ということを知っていましたが、プレイ中に強盗に襲われた事例があるらしく、JICAからは禁止されていました。何とかならないかと思っていたら、ある時からボディガードを帯同することを条件に解禁され、プレイすることができるようになりました。クロコダイルホールというワニが出没するホールもあり別のスリルもあります。また、このゴルフ場で、PNGオープンという海外プロも参加するゴルフツアーが開催され観戦に行きましたが、これが南国っぽくて実にいい雰囲気でした。

現地には日本人会という有志グループがあり、JICAや大使館、商社やゼネコン、メーカー、コンサルタントなどの在留邦人が多く登録し、親睦を深めるイベントに参加することができました。例えばアドベンチャーパークという自然公園を訪問し、南国ならではの多種多様な動植物を間近で見ることができました。特に、パ国の国鳥であり国旗にも描かれている極楽鳥や、全長5mはあろうかという巨大ワニは見ごたえがありました。

また、せっかくポートモレスビーは海が近いのに、観光客が安心して遊べるビーチがなかなかないのですが、30分ほどジェットボートで沖合に出れば、素敵なお島がある小島で海水浴やバーベキューを楽しむことができました。現地人スタッフによる準備や協力がなければ、なかなか行けない場所ですが。

3. 英語での仕事

国際協力における多くの海外業務では英語が必要になります。プロポーザルの競争力を高めるためにも英語資格は重要ですが、実際に業務を実施する上でも現地でのコミュニケーションや会議資料、報告書等はすべて英語となり、ある程度の英語力がなければ仕事になりません。

よく、英語ができなくても、技術があれば海外業務は務まるという意見もあります。相手国に日本語が話せるスタッフがいたり、最近では頼れる翻訳のソフトやAIアプリを活用することで、仕事を「こなす」観点では何とかなるのでしょうか。しかし、仕事はもちろん現地での生活も含めて「楽しむ」という観点からはやはり英語ができるに越したことはありません。何か月も現地の生活をするプロジェクトでは、なおさらでしょう。

海外で活躍する日本人アスリートでも、英語でやりとりしていると、楽しそうだしカッコいいですね。

4. おわりに

論語に「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」という言葉があります。とても好きな教えです。論語は孔子の死後、弟子たちが教えをまとめて作られたと聞きますが、きっと孔子がほろ酔い加減で、気分の良い時に「まあ楽しめばいいじゃん！」と、弟子に向けて放った言葉に違いないと勝手に想像しています。時空を超えて身近に感じます。

私も何かを始めるとき、どうせなら「好き」より「楽しい」というレベルにもっていけるよう、心掛けたいと思っています。海外業務は、言葉や文化、商習慣の違いなどから、思い通りにいかないこともしばしばありましたが、「之を楽しむ」ためにはどうすべきか、と考えて行動したことは多々あったように思います。何事も楽しむ、と思う今日この頃です。

事務所と趣味の紹介

中日本建設コンサルタント株式会社/
大阪事務所/営業部/主任

西野和也



1. はじめに

私は2016年4月に中日本建設コンサルタント株式会社に営業職として入社し、今年で9年目となります。

文系大学を卒業していることもあり、入社当時は土木に関する知識がなく、仕事を続けていけるか不安もありましたが、先輩方にご指導いただきながら知識やスキルを身に着けることができ、少しずつ成長できていると実感しております。

今回はこのような機会をいただきましたので、私が所属している大阪事務所の紹介と趣味について記載させていただきます。

2. 大阪事務所について

大阪事務所は1997年12月に開設され、今年で27年目を迎えます。現在は32名が在籍しております。

2019年には、当社としては初めての試みとなる「オフィスのフリーアドレス化」を行いました。現在ではフリーアドレスを取り入れている企業も増加しているかと思いますが、フリーアドレス化に伴い働き方に変化が出ましたので、導入後、私が感じた「メリット」や「デメリット」をご紹介します。

(1) フリーアドレスのメリットについて

フリーアドレスのメリットは、コミュニケーションの活性化につながる点だと考えます。在籍している8年間の間に固定席も経験しておりますが、固定席は相手がどのような作業をしているか分かりづらく、声をかけて良いタイミングが掴みにくいと感じていました。フリーアドレスとなってからは作業状況が把握しやすく、報告・連絡・相談など業務の連携が取りやすくなりました。

コミュニケーションが増加したことにより、業務の進捗や情報共有が把握しやすい環境になりました。また、ペーパーレス化を実施し資料を大幅に整理したことで、今までは暗いイメージがあった事務所が、開放感のある明るい環境へと変化し、現在は作業効率の上がる環境で働かせていただいていると感じております。

(2) フリーアドレスのデメリットについて

フリーアドレスのデメリットは、2点あります。

1点目は「誰がどこにいるか分かりにくいこと」です。座席管理など対策方法は様々ありますが、大阪事務所ではパーティションがなく、周囲の確認がしやすい配置であるため、影響を感じる場面はあまりありません。

2点目は「集中力が落ちること」です。パーティションなどをなくすことにより事務所内で同僚が話す電話の声や、同僚同士の会話の音が通るようになりました。そのため、遮音対策として個人での工夫が必要となります。私はあまり周囲の音は気にならないので特に工夫をしておりませんが、会話や電話を控える集中スペースの活用や、耳栓での遮音対策など、それぞれで集中しやすい環境を整えて仕事に取り組んでいます。

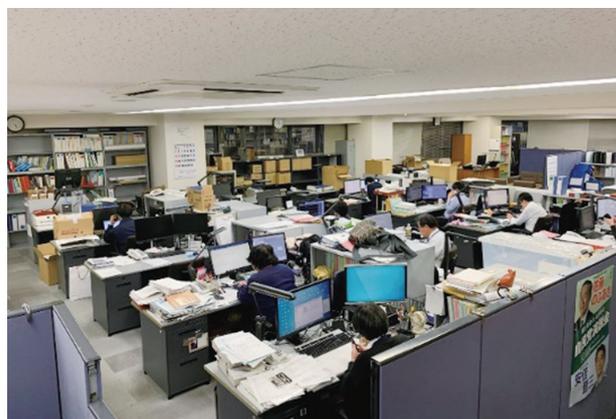


写真-1 フリーアドレス前の社内

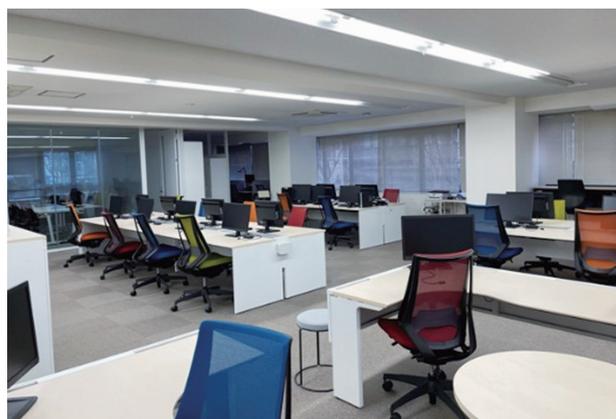


写真-2 フリーアドレス後の社内

3. 趣味について

(1) 野球について

私は、野球を学生時代の約13年間続けてきました。社会人になってからも続けている趣味の一つです。野球をすることで心も体もリフレッシュすることができます。また、実際にプレーするだけでなく、野球観戦が交流を深めるきっかけになることもあります。実際に、仕事ではなかなか触れ合う機会の少ない同僚や上司と、野球の話題で盛り上がり、親睦を深めることができました。それによって、職場の雰囲気やチームワークが向上し、仕事の効率や業績にもプラスの影響を与えていると感じています。共通の趣味が人間関係の構築やチームワークの向上の機会として重要な役割を果たしています。

社会人になると、仕事や家庭の責任が増え、自分自身の時間や趣味に割く時間が限られてきました。プレー出来る時間は少なくなりましたが、プロ野球中継や野球速報を見るなど自分なりの楽しみ方を見つけて楽しんでいます。

野球の魅力は、仕事や家庭とは異なる世界に身を置くことで得られるリフレッシュ効果です。仕事の疲れやストレスを野球に向けることで、心身ともにリセットされ、新たな活力を得ることができます。また、野球を通じて得られる友情や仲間との絆は、かけがえのないものです。共に汗を流し、勝利や挫折を共に味わうことで、互いの信頼関係が深まります。

さらに、社会人としてのスキルや能力を向上させる場でもあります。野球は単なる身体能力だけでなく、戦略力やリーダーシップ、協調性などを養う絶好の機会です。試合や練習の中での状況判断やチームプレーは、仕事や日常生活においても役立つことがあります。私は野球を通じて、仕事や人間関係で必要なスキルや姿勢を学び、成長することができました。

年齢や体力の衰えも感じることはありますが、それを乗り越えてプレーすることで、新たな楽しみや充実感を得ることができます。

仕事や家庭とのバランスを保ちながら、心身をリフレッシュし、スキルや人間関係を向上させる貴重な機会です。私は、これからも野球で得られるスキルや能力を大切に、仲間と共に楽しい時間を過ごしなが、さらなる成長を目指します。



写真-3 野球場での一枚



写真-4 ゴルフ場での一枚

(2) ゴルフについて

社会人になってから始めた趣味がゴルフです。始めたきっかけは、本社で年末に行っているゴルフコンペに声をかけていただいたのがきっかけです。ゴルフは全く経験がありませんでしたが、運動には自信があったので、仕事ではなかなか触れ合う機会の少ない同僚や上司と話ができる機会になると思い、始めることになりました。

テレビでゴルフの番組を見ることや、友人から話を聞くことはありましたが、なぜ止まっているボールを打つのがそんなに難しいのだろうと思っていました。しかし、初めて練習場でボールを打つと全然思い通りにボールが飛ばず、難しさを実感することになりました。

また、ゴルフはコミュニケーションを促進する重要なツールです。特に上司とのゴルフは、仕事上の関係を深めるだけでなく、信頼や絆を築く絶好の機会となります。コース上でのプレー中には、普段の業務では気づかないような話題や意見が自然と交わされます。また、リラックスした雰囲気の中で、上司との距離が近づき、率直な意見交換が可能となります。仕事の話からプライベートな話題まで幅広いテーマが取り上げられ、相手の価値観や興味、関心を知る良い機会となっています。

ゴルフを通じた上司との良好なコミュニケーションは、お互いの信頼関係の構築だけではなく、社内でのチームワークの向上にも繋がっていると実感しております。

4. おわりに

大阪事務所のオフィスがフリーアドレスとなり、暗いイメージのオフィスが、明るく働きやすい環境となりました。メリットだけではなくデメリットもありますが、同僚それぞれで工夫し、メリットを最大限に生かしてより良い環境を作れるように協力していきたいと考えております。

また、趣味は自分のリフレッシュ活動となるだけでなく、同僚と共に楽しむことでお互いに信頼関係を構築できていると感じています。そして、趣味を通じて得た信頼関係が仕事での円滑な作業やチームワークの向上につながっていると考えられるため、趣味をおろそかにせず、仕事や家庭のバランスを取りながら今後も楽しみたいと考えています。

会員寄稿

田舎暮らしの中での、 防災（自助）の取り組み

中電技術コンサルタント株式会社／
技術統括本部／都市・建築部／都市開発課

山田一臣



まず初めに、令和6年1月に発生した能登半島地震で被災された方々に対し、謹んでお見舞い申し上げます。

1. はじめに

私は、娘の小学校入学のタイミングに合わせ、いわゆる中山間地域に引っ越しました。人口が3千人に満たない、高齢化の著しい農村地区で、牧歌的な風景が広がる平和な環境ですが、過去には豪雨災害にも見舞われ、近隣の河川復旧工事が実施されたのは被災から5年を過ぎた昨夏であり、復旧にも時間を要しました。

能登半島での地震など自然災害が頻発する中で、自らを守るため災害に対する備えなど少しずつ進めており、この場をお借りして少しご紹介したいと思います。

2. 我が家の住環境

(1) 周辺環境

私が住む地域は、先に説明のとおり典型的な農村集落であり、周辺は河川源流域で水源涵養を目的とした保安林に囲まれています。最寄りの店舗は地域物産館であり野菜等は購入できますが、コンビニまで行く場合は車で約10分程度かかります。私は農家ではありませんが、家庭菜園で少し野菜を栽培するほか、義親が山や果樹畑等を所有しており、シーズンになると柿や栗などを採取します。ただ果樹畑などかなり荒れており、間伐等を通じ少しずつ山や果樹畑の再生に取り組んでいます。

また豪雪地帯とまではいえませんが、冬季には氷点下になることも多く、一度降雪すると日陰では1～2週間残雪があります。

このように不便極まりない場所ではありますが、一方で豊かな自然に恵まれています。我が家の前には川が流れており、6月初旬には玄関を出てすぐに蛍が鑑賞できます。また川の反対側には牧草地が広がっており、居間より窓越しに見ると、さながら絵画のような美しい景色が広がっています。夜になると星が近くに感じられるくらいに煌めきますが、窓越しに見える牧草地は、夜な夜な、どこからともなくシカの大群が集まり、ドッグランのように遊んでいます。我が家の庭も、シカが水飲みのため川に降りる通り道となっており、帰宅時に駐車するといきなりヘッドライトの前にシカがたたずんでいたり

します。

(2) 上下水道インフラ環境

「水坤」への寄稿のため、上下水道についても少し触れます。上水道については、我が家は給水エリアより少し外れており、上水道接続のためには相応の負担（配水管の延伸）が必要となり、仕方なく井戸を水源としました。しかし幸いにも良質な水質であり、夏はコップに水滴がつくほど低温で美味しい水を飲むことができます。

給水エリアからも外れている場所のため、当然のように公共下水道も整備区域外です。このため、汚水については合併浄化槽を設置しております。

3. 私が経験した災害（豪雨災害）

平成30年7月6日、西日本豪雨災害が起きました。広範囲で同時多発的に土砂災害、河川氾濫等が発生し、私が住む地域でも大きな被害を受けました。発災当日の金曜日、夕方のオフィス内では至るところで携帯の警報が鳴りひびきましたが、私は仕事のため帰宅は深夜になりました。車通勤のため色々なルートをまわりましたが、道路アンダーパスは水没しプール状態、橋は増水のため渡ることができず、また土砂崩落、道路陥没等のためあらゆる道路が通行止めとなっており、実際に帰宅できたのは2日後の日曜日の深夜でした。帰宅した我が家は幸いにも大きな被害はありませんでしたが、家屋前面の河川護岸が一部崩壊したほか、近隣の用水路より溢れた雨水が敷地内に侵入し、床下浸水が発生しました。

私は地域の消防団に入っていますが、通行止めにより帰宅できない中で他のメンバーは河川溢水箇所への土嚢積みや高齢者の避難誘導等、大変な状況であったと聞いております。また仕事面では災害調査や復旧設計など、しばらくは災害対応を行うことになりました。

この災害対応に合わせ、水コン協所属支部と複数の近隣自治体との間で、災害時支援協定の締結が進んだと記憶しています。

4. 趣味を通じ、身近な危険に備える

毎年のように発生する自然災害、また自らも被災した経験を踏まえ、いわゆる「自助」の部分について、家庭内で話す機会が増えました。昨今の働き方改革の中、時

間的余裕が増えたこともあり、DIY等の趣味を通じ自ら出来る「備え」に少しずつ取り組んでいます。

(1) 上下水道機能の確保

被災時の飲料水確保は最重要の課題です。我が家は水源が井戸のため、災害時に停電が発生すると揚水ポンプが停止し給水不能となります。このため、非常用電源としてポータブル電源+太陽光パネルを購入しました。

汚水については、過去に敷地内を雨水が流下したことを踏まえ、浄化槽設備の耐水化（プロア回りを空洞ブロックで嵩上げし水没を抑止）を実施しました。

(2) 燃料調達の自立化

我が家では11月頃より急激に寒くなり、暖房が必要となります。これまではエアコン、石油ストーブ（灯油）により暖を取っていましたが、燃料調達の自立化を目指し、薪ストーブを導入しました。乾燥した薪は購入すると非常に高価ですが、自ら山で伐採するほか、地域の薪づくりサークル等を通じ原木を確保し、薪づくりを行っています。薪ストーブを導入し2回目の冬でしたが、石油ストーブは一切使用することなく過ごすことができました。

停電や道路寸断により燃料調達が難しくなった場合、薪ストーブがあれば暖を取る、調理に利用する等が可能となります。



写真-1 薪ストーブと薪棚

防火のためタイル貼りの炉床・炉壁を自作（床下補強含む）
薪棚（容量約6m³、概ねワンシーズン分）を2基製作

(3) 獣害対策

自然災害とは異なりますが、日々直面している危険に対する備えとしての取り組みを紹介します。

前述のとおり、我が家の周辺は野生動物が頻繁に出没する環境にあり、農作物の被害のほか、車両との衝突事故、マダニ被害拡大など、危険と隣合わせの状況です。

薪づくりの一環として安全な伐採作業（チェーンソー作業）を動画等で学ぶなかで、高確率で狩猟に関する動画がリンクされており、狩猟に興味を持ちました。地元猟友会の高齢化が著しい中、近い将来、更なる獣害の拡大が懸念されるため、昨年、近隣の若手メンバー（といっても40～50代）で狩猟免許を取得しました。初年度の猟期は、近所の農家さんの山に自作のくくり罠を仕掛け、イノシシを捕獲しました。現在は、わな見回りの効率化

を目指し、箱罠の作成、および遠隔監視化（扉が閉まると携帯に連絡が入る）を計画中です。



写真-2 捕獲したイノシシ（約80kg）、製作中の箱罠
捕獲したイノシシは、命に感謝し美味しくいただきました
箱罠は、慣れない溶接作業に悪戦苦闘中です

5. 田舎に住んで思うこと

田舎に住み、都会の利便性とは対極の環境下での生活で感じることは、田舎暮らしとは「自分で出来ることは、まず自分で行う」ことが生活の根底にあるということです。

時間に余裕ができ、色々なモノ作りに挑戦する中で、素人ではうまくいかず、途中で投げ出したくなる時が多々あります。お金を掛ければすぐに解決する（買った方が見栄えもよく、楽できる）ことも可能ですが、自作であれば自ら考え、工夫することで、何か不具合があっても自分で調整、修理、改良することも可能ですし、何より、「何か工夫する余地はないか」という視点で、日頃より物事をとらえる習慣につながっている気がします。廻りの年配者を見ると、古い道具をメンテナンスし長く使い続け、資材などの再利用も積極的にされています。田舎暮らしでは、昔から当たり前のこととしてSDGsを実践されてきたのだと感じています。

防災への備えについても、「少しでも自分で解決出来ること」を増やすこと、「今あるものを工夫し流用、活用する」ことで、少しでも「自助」の向上につながるのではないかと思います。

また田舎では都会とくらべ近隣との距離（付き合い）が近い面があります。良好な近所付き合いを行うことが、「共助」の向上につながると思います。

6. おわりに

能登半島地震の復旧・復興活動が続いている中で、素人考えで「防災への取り組み」などと寄稿するのが適切であったか不明ですが、少しずつ自ら出来ることを実践していきたいと思っています。

最後に、14年の長きにわたり中国・四国支部の事務局を務められた中田事務長さま、大変お世話になりありがとうございました。ご勇退にあたり、末筆で恐縮ですが、この場をお借りし謹んで御礼申し上げます。